

蔵出しお宝ニュース

— 第 46 号 —

三原市歴史民俗資料館では、所蔵資料の本格的な整理・展示のリニューアルに取り組んでいます。本紙では、資料館内で長らく眠っていた三原市ゆかりの貴重な資料の解説と行事の案内・紹介などを随時行って参ります。

三原神明市展を開催

平成 27 年 1 月 31 日（土）から 2 月 15 日（日）までの 15 日間〔ただし、2 月 11 日（水・祝日）は休館〕、当館 1 階展示室で「三原神明市展」を開催いたします。三原神明市は、備後路に春を告げる祭りとして 400 年以上の伝統を誇っています。



青木充延著『三原志稿』によると、かつては正月 14 日に行なわれていましたが、現在は 2 月の第 2 日曜日を含む金・土・日曜日に行われ、今年は 2 月 6 日（金）～ 8 日（日）です。

1 月 18 日（日）、三原駅前に高さ約 19 メートルの大とんどが据えられました。神明市では、御神体となる「とんど」が巻かれます。とんどは「左義長」「おやま」「とんどやき」など、いろいろな名称で呼ばれますが、小正月に行なわれる火祭行事です。また、「神明」という言葉からして、伊勢神宮を祀る祭りを指します。よって三原の神明市は伊勢信仰と火祭りのとんどが一緒になった行事なのです。

今回の三原神明市展では、行事風景の古写真やだるま、とんどを描いたパネルなどを展示します。ぜひご来館ください。

（左）昨年度の三原神明市展の様子

歴代三原城主紹介 小早川隆景 其の2

平成29年に三原城が築かれて450年を向かえるにあたり、諸団体によって準備が進められています。本紙では、450年祭に先駆けて歴代三原城主の事績や逸話などについて紹介していきたいと思います。

小早川隆景の逸話

隠居後の隆景の風懐を伝えるものとして、『陰徳太平記』に記され、『三原志稿』にも引用されている、毛利輝元の老臣・林吉兵衛が京都から帰参の途中、三原城内の隆景を訪ねた時の話があります。



(上) 三原城跡 天主台 南西隅の石垣
三原城の石垣の中で最も古く、小早川隆景時代のもと考えられます。

この時、隆景から「今頃、京の方ではどのような唄が流行しているか」との問いがあったので、吉兵衛は「この頃はやりの隆達小唄の中で『面白の春雨や、花の散らぬ程降り』というものを、大人はもちろん、3才の子どもまでもこれを唄いはやしております。」と答えました。

隆景はその句を喜び、吉兵衛にこれを唄わせ、その後で「この唄の語意はまことにおもしろい。これを『面白の儒学や、武備の廃らぬほど嗜め。面白の武道や、文事を忘れぬほど嗜め。面白の歌学、面白の乱舞、面白の茶の湯や、身を捨てぬほど嗜め』と唄うべきである。いかに善いことでも、これを好んで中庸を超えれば弊害を伴うものである。汝、広島に帰ったならば、このことを輝元卿に唄って聞かせ、また諸老臣にもこの句意を説いて聞かせよ。」と言ったといひます。

また、有名な逸話として「三矢の教え」があります。晩年の毛利元就が3人の子ども（毛利隆元・吉川元春・小早川隆景）に対して「1本の矢では簡単に折れるが、3本纏めると容易に折れないので、3人共々結束すること」と、兄弟の結束の大切さを教えるというものです。

「三矢の教え」は大変よい内容なのですが、これは毛利元就が弘治3(1557)年に書いた三子教訓状を基にして、後世に造られた話です。

おき どこ しゅん じゅう
置 床 春 秋



掛物 広島藩 年寄 沢三石 筆
月下梅花図
花入 釣瓶 花 季のもの

発行 平成27(2015)年 1月27日
〒723-0015 三原市円一町二丁目3番2号
三原市歴史民俗資料館
TEL 0848-62-5595

※本冊子に掲載の写真などは、許可なく転用なされないようお願い申し上げます。